

所属	看護学研究科 看護学専攻 コミュニティ看護学分野	修了年度	2020 年度
氏名	谷口 友子	指導教員 (主査)	安齋 ひとみ

論文題目	育児中の母親の世代間交流への思い
------	------------------

### 本文概要

#### 【目的】

本研究の目的は、地域の中で世代間交流活動に参加している育児中の母親の語りから、母親の世代間交流への思いを明らかにすることである。

#### 【方法】

対象者は、関東近郊 3 箇所の世代間交流に参加している研究承諾の得られた乳幼児を持つ育児中の母親 4 名である。母親に半構成的インタビューガイドを用いてデータ収集を行った。録音したデータから逐語録を作成し、質的記述的方法を用いて分析した。逐語録から「母親の思い」をコードとして抽出した。誰に対する思いなのか、いつの思いなのかを時系列で分析し、他のデータとの比較を繰り返しながらコードから小テーマを生成した。小テーマの内容の共通性、相違性、時系列、思いの対象を比較検討し、母親の思いがどのような意味を持つのかを解釈し、テーマを導き出した。

#### 【結果】

分析の結果、101 コード、25 小テーマから 9 テーマが生成された。9 つのテーマは【参加している高齢者への戸惑い】【高齢者との関係が近づいていく感じ】【高齢者と関わり感じる新たな刺激感】【子育てしている自分と子どもが大切にされている感じ】【子育ての対応を教えてもらえ心が軽くなったと思う】【大家族みたいな感覚が持て嬉しい】【気楽に自然でいられる感じがいい】【新たな母親がここ来るためにどんなふうにしたらいいかと思う】【地域の中で人と交流でき知り合える機会が増えてほしい】であった。

#### 【考察】

世代間交流に参加する母親の高齢者への変化する思いが明らかとなった。また、母親は世代間交流のゆるさや気軽さの中で、「親として」「個として」支えられ、House (1981) の示す「情動的」「評価的」「情緒的」「手段的」4 つのサポートを得ている可能性が示された。さらに、他の母親も含めた、人々の中で子育てできる地域への母親の願いが明らかとなった。高齢者から刺激を受け変化していく母親の思いや、高齢者から受け取った暖かい思いを地域へ波及させたいと願う母親の力を理解することが期待される。

#### 【キーワード】

世代間交流 育児 母親 思い